

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300119		
法人名	(株)ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家帝塚山(1)		
所在地	大阪市阿倍野区帝塚山1丁目10番地7		
自己評価作成日	令和2年3月10日	評価結果市町村受理日	令和2年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JinyosyoCd=2792300119-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「たのしい家」で「たのしく暮らす」を目指しています。地域のボランティアの方にきていただいたり、地域の行事に参加したり、施設内での行事に地域の方を招いたりして日々の暮らしの中で変化や楽しみが持てるようにご利用者や職員創意工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「チーム一丸となってケアに取り組む、一人ひとりと向き合うケア、地域の一員であることを実感できる暮らし」との理念を掲げ、会議や申し送り時に意識して話し合いその人らしい暮らしの実現に向け職員は連携良く日々の支援に取り組んでいます。利用者とのコミュニケーションの中で馴染みの場所を聞き希望するデパートへの買い物や喫茶店へ出かけたり、外出が困難になった時にもホーム内で楽しめるようレクリエーションを工夫しています。週に4日看護師が出勤し健康管理を行い医師との連携体制が築かれており、重度化した際は本人や家族の思いにそって看取り支援にも取り組んでいます。また地域との関係が良く、自治会に加入し盆踊り等に参加したり、琉球舞踊や三味線等のボランティアの来訪やホームの夕涼み会には地域にも案内し交流の機会を持っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全員で理念を作り、理念を共有するために玄関に掲示し、朝の申し送りの時によりみ合わせをしている。	法人理念の基、開設時に職員間で話し合い作成した独自の理念を掲げ、各フロアに掲示し毎朝の申し送り時に読み合わせをして意識してケアに当たっています。入職時に理念について説明し伝え、全体会議の際にチーム一丸となることや一人ひとりと向き合うケア、地域交流に向けて実践できるよう話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩、買い物などで地域の店を使っている。運営推進会議や回覧板、地域在住の職員からの情報をいただき、参加できる事や行事には参加している。	自治会に加入し回覧板や運営推進会議の際に地域の情報を得て、近くの公園で行われる盆踊り等に参加しています。小学生との交流が続いており文化祭や運動会への見学や体験学習の受け入れ等を行っています。琉球舞踊や三味線等のボランティアの来訪やホームで行う夏の夕涼み会には地域にも案内し交流の機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの小学校の子供たちが訪問して利用者様と交流できる時間を作るようにしてその場で認知症についての理解をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催、包括、町会長、ご家族様7組程度ご参加いただき、日常生活や行事や身体拘束適正化委員会等を行っている。	運営推進会議は家族や町会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。利用者の状況や行事、事故・ヒヤリハット事例の報告を行い意見交換をしています。入浴支援のための人員配置についての意見が出され、職員間で話し合い改善に取り組む等、意見が言いやすく有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料、議事録を提出してご意見頂いている。	運営推進会議の議事録は一年分をまとめて市に提出し報告し、手続きや事故報告の際に区役所の窓口に向いています。感染症などの注意喚起があった時には会議で職員に伝えたり、アンケート調査に協力しています。事業所連絡会の案内が届いており出席したいと考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とフロアの施錠行っているが日々施錠しないようにするためのはどうしたらいいか職員同士で考え話しあっている。法人内でGH会議などで身体拘束をしている事例を検討検証している。	年に2回身体拘束についての研修を行い職員に周知し、運営推進会議の際に身体拘束適正化委員会を開き研修状況や身体拘束を行っていない現状を伝えています。玄関やユニットの出入り口の施錠をしていますを外に行きたい様子があれば外に付き添い行くこともあり拘束感を感じないように支援しています。家族の了承を得てセンサーマットを使用している方にはカンファレンスの際に必要なことについて検討しています。不適切な言葉掛けなどはセルフチェックシートを用いてチェックし、日々注意し合える関係が築かれています。	

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修教育計画に沿って年2回の研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修教育計画に沿って受講している。後見人制度を利用されているご利用者もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者やご家族様に入居前に重要事項などを十分説明して契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内で年1回顧客満足度調査を実施している。運営推進会議で意見をいただいて面会時に直接ご家族様から意見をいただくように反映している。	家族の意見や要望は、面会時や電話対応時、運営推進会議の際に直接聞いたり、法人の行う利用者満足度調査に意見を書いてもらう機会を作っています。家族の意見を受けて昼食前に口腔体操を定例化したり手指消毒だけでなく流水での手洗いの励行を行う等サービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンス、施設全体会議を実施し職員の意見を吸い上げている。法人でも従業員満足度アンケートを年1回実施している。アンケート結果が悪い施設は再アンケートを行っています。	全体会議やユニット毎に行うカンファレンスで意見交換をしており、出席できない職員にも事前や議事録を読んでもらい意見を聞いています。年に一度の個人面談や日々管理者はコミュニケーションを図る中でも意見を聞き、また満足度調査も実施しています。レクリエーションについての意見が出されホーム内で楽しめるよう工夫したり、行事ごとに担当職員を決めて主体的に計画を立て実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリア段位制度(介護技術、スキルの評価)誰のび人事制度、自己申告制度(異動、希望など)前向きな思考をもつコーチング研修、褒め合う社風を作るための褒めカードがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が内部の研修を受ける機会を確保している。キャリア段位制度がある。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新規開設施設の職員が当施設へ研修にきたり法人内で管理者の会議や研修、勉強会を実施している。介護職員に対してユニットリーダー研修がある。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者がアセスメントを行い、本人や家族様が困っていることや思い等をききとり施設のできることやできないことも踏まえて信頼関係構築につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者がアセスメントを行い、本人や家族様が困っていることや思い等をききとり施設のできることやできないことも踏まえて信頼関係構築につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の居宅や訪問介護、認知症デイなどと連携をとり支援している。包括やオレンジチームと連携をとることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除、洗濯などご利用者のできることはできるだけしていただくようにしている。ご本人のできること(役割)を増やすように話しあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内外(遠足)での行事に参加していただいたり、面会時に外出散歩をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔行っていた場所や在宅でうけられていた訪問リハビリや訪問診療を継続している。ご家族様より情報をいただいたり、ご本人より聞き出す努力をしています。	利用者とのコミュニケーションの中で馴染みの場所を聞き希望するデパートへの買い物やよく行っていた喫茶店へ出かけています。家族と自宅や墓参りに行く方もおり準備等の支援をし、また年賀状を書く方にはポストへの投函等を行い、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めています。	

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	ご利用者様同士協力しあいながら家事等手 伝えるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去してご夫婦での生活をはじめられたか たに訪問や電話をしている。緊急時には小 規模でのサービス提供を進めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	1人1人の思いや暮らしに寄り添ったケアをし ている。コミュニケーション困難な方にはご 家族様から情報をもらい支援しています。	入居前に自宅や病院等の暮らしている所へ出向 き利用者や家族と面談し、生活歴や好み、趣味嗜 好等を聞き、また担当のケアマネジャー等からも 情報を得て思いの把握に繋げています。入居後 は日々の関わりの中で得られた情報を記録に残 し、意思疎通の困難な方の思いは家族に聞いたり カンファレンスで本人本位に話し合い思いの把握 に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご本人、ご家族様から情報をいただき、これ までの生活歴、馴染みの生活を継続してい ただけるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い体調にあわせた生活 を過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎月各ユニットでカンファレンスを行いよりよ くらすために職員間で話しあっている。ご 家族様にも参加いただいたり面会時に情報 をいただいたりして計画書に反映させてい る。	本人や家族の思い、アセスメントの基サービス担 当者会議を開き、介護計画を作成しています。3か 月毎にモニタリングや評価を行い6か月毎に見直 し、見直しに当たっては再アセスメントを行い、家 族の意向や医師の意見を聞きサービス担当者会 議を行っています。また計画の実施状況がわかる ような記録ができるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録をつけており職員間で情報共 有している。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様に相談して自宅に帰ったり近鉄百貨店に行ったり月命日に仏花を買いに行ったりしている。近隣の喫茶店にランチに行っている。公園花見などもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーに買い物に行ったり近隣の花屋に仏花を買いに行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターと施設ナースが連携とり健康管理に努めている。馴染みのかかりつけ医を継続している方もいます。	入居時にかかりつけ医を継続できる事を説明し、継続している方は家族と受診してもらい口頭で情報交換をしています。協力医の往診は月に2回あり、看護職員が週に4日健康管理や24時間連絡できる体制を整えており、夜間等に体調不良があれば看護師に電話し指示を仰いだり主治医に連絡を取って対応しています。希望に応じて訪問歯科による治療や口腔ケアを受けたり訪問マッサージを受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携しながら日々の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時に対応していただける病院を確保している。入退院時には必ず施設ナースがお見舞いにいき情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族様の意向を伺い、重度化や終末期になった時、なりそうなきは話し合いを持ち、施設内で看取りケアを行っている。	入居時に重度化や看取り支援の対応についての指針にそってホームでの支援できることを説明し同意を得ています。実際に重度化した場合に家族に状況を説明し、職員も一緒に話し合いながら方針を決めています。希望も多く看取り支援の経験もあり、家族には面会を増やしたり泊まる方もおり協力を得て、思いを確認しながら支援をしています。看取り支援の研修を行ったり経験者が未経験の職員に伝え支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や事故発生時の対応の研修を実施している。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回消防訓練行っている。	年に2回行う消防訓練は昼夜を想定し、1回は消防署の立ち会いの下実施しています。通報や利用者も一緒に消火器の使い方、避難誘導の訓練を行い、消防署員からアドバイスももらっています。水や缶パンなどの食料、懐中電灯等の備蓄をしています。	運営推進会議で訓練の報告をしています。地域との協力体制について相互にできる事は無いか話し合ったり近隣の方に訓練の案内をされてはいかがでしょうか。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは一人一人丁寧に言い、誇りやプライバシーにかかわることは尊厳を大切にしています。	接遇マナーやプライバシー、認知症等の研修で利用者の尊厳を大切にされた対応について職員は学び、日々の関わりは敬語で丁寧な言葉遣いを基本とし、利用者のわかりやすい言葉を使用することもあります。年に2回セルフチェックシートを用いて個々の職員が振り返りを行うと共に不適切な対応があれば管理者やリーダーが都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望の買い物に行くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人それぞれのペースにあわせたり希望や思いに沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服、入浴後に着る服など本人の希望を聞いたり、選んでもらったりしている。化粧をしている方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は一緒にしたり(皮むき、盛り付け、米とぎ、洗い物、食器やお盆ふき、味見など)リクエストをきいて献立を決めている日を月2回もうけている。	業者から献立とそれに沿った食材が届きホームで調理し、利用者には食材の皮むきや職員が見守りながら包丁を持って切ったり、盛り付けなどに携わってもらい作り、職員も一緒に食卓を囲み食べています。月に2回リクエスト食として利用者の希望を聞き献立を決め、買い物から一緒に行き食事作りをしたりおやつを手作りして楽しんでいます。畑で作られた野菜が食卓に上がったり、喫茶店や回転寿司等への外食も利用者の楽しみになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった食事量、食事形態で栄養バランス確保できるように支援している。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援しています。定期的に訪問歯科、口腔ケアをしていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけトイレでの排泄ができるように支援していきます。	個々の介護記録に排泄の記録もありパターンを把握しており、一人ひとりのタイミングでトイレに行けるように支援しています。座位が保持できる方はトイレでの排泄を支援し、支援方法や排泄用品の選択はカンファレンスで話し合っています。支援する中で改善がみられ紙パンツから布の下着に変更した方もいる等、自立に向かうよう支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックをしたり、ヤクルト等の乳製品の提供したり毎日の口腔体操、ラジオ体操、笑いヨガなど体を動かす時間を作り便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2~3回入浴しています。一番風呂の好きな方、身体状況にあわせて夕方が適している方など本人の好みや状態に合わせて入浴介助しています。	入浴は週に3回日中の時間帯を基本とし、一人ずつ湯を入れ替え好みの湯温も聞きながら会話を楽しみゆっくりと入ってもらっています。入浴剤の使用やゆず湯等の季節湯をしたり、好みのシャンプーやリンスを持参する方もいます。拒否される方には声をかけるタイミングを図ったり、日を変える等して無理なく入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを見たり、ご利用者様同士で話したりして過ごす時間のあと眠られたりされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量についての理解は浅いです。処方された薬をもれなく服用努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として調理や洗濯物や掃除、装飾品の作成などしていただいています。楽しみや気分転換のため季節ごとの行事やレクリエーションを実施しています。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、少人数で散歩にでています。ご家族様の面会時に散歩等行って頂き戸外へでの機会確保しています。	感染症の流行がない時には週に2~3回散歩に行ったり、畑で育てている野菜を観に行く等外気に触れるようにしています。初詣や近隣の公園に桜の花見に出かけたり、家族にも案内して行う外出行事では今年度は動物園に行き楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で現金を持っていないと落ち着かない方は持っていていただきます。ご利用者の「おこずかい」としてお預かりしている現金があり、ご本人に必要なもの、希望があるときに使います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ、手紙のやりとり等の支援をしています。年賀状や暑中見舞い等をご家族様にだしていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生的でご利用様が不快な気持ちにならないように環境整備に努めています。	毎月利用者と一緒に折り紙などで空想を作成したり季節の飾りつけをし、時にはフラワーアレンジメントのボランティアの来訪があった際には生花を飾ることもあります。限られた空間の中でテーブルの位置や座席を工夫しながら利用者が穏やかに過ごせるよう配置しています。毎日の掃除は利用者もほうきや掃除機をかける方もおり、換気や温湿度管理にも気を配り心地よい空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内は自由に過ごしていただけるスペースです。居室では1人で過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には慣れ親しんだダンスや好みのものを持ちこんでいます。入居後、レクや行事で作成したものや写真等を飾っています。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう説明し、ダンスやテーブル、椅子、大切にしている仏壇等を持参され本人と家族が配置を決めています。家族や本人の写真を飾ったり、趣味の編み物道具や本を持って来ている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の部屋の張り紙や目印をつけています。		